総合医学会報告

2023年シンポジウム：臨床研究を活性化するための方策

臨床研究活性化の試み
－臨床研究部における取り組み－

江面正幸† 和泉 透 西村秀一 菊地 正
鈴木貴夫 尾上紀子 佐藤健一

第77回国立病院総合医学会
2023年10月20日 於 広島

IRYO Vol. 78 No. 5（286－290）2024

要旨 【目的】国立病院機構（NHO）は理念に，質の高い臨床研究を掲げており，臨床研究を活発に行うことはNHO病院の責務である．NHO仙台医療センター（当院）臨床研究部において行った臨床研究活性化の取り組みを紹介する．【方法】筆者が当院臨床研究部長時代に行った改革は，１）従来の院内臨床研究の名称を臨床研究部助成研究（以下助成研究）に改称，２）助成研究の募集区分を競争型（助成額100万円以内，ヒアリングあり）と，均等型（助成額３万円程度，その内容を学会で発表した場合研究費の上乗せ［２万円程度］あり）の２種で設定，３）助成研究の成果発表の方法を従来の臨床研究セミナー（半年にわたって小会議室で月１回開催，同一領域は同一回に割り振られての口演発表）から助成研究報告会（連続２日大会議室での全領域一括開催，ポスター発表が主体，ポスター賞あり）に変更，４）各科・各部署の臨床研究活動実績ポイントの獲得ポイントを公表，５）助成研究報告書を臨床研究部年報に収載，６）臨床研究支援チームを結成，などである．また，仙台医療センター医学雑誌（SMCJ）の改革，については，年１回製本版のみの発行から，年３回発行（第１号，２号は，web版のみ，第３号発行時点で従来の製本版発行）に変更した．【結果】病院全体の学会発表数は増加した．助成研究報告会の参加者も大幅な増加となった．SMCJへの投稿は以前は年度末に偏っていたが現在は通年偏りなく投稿されるようになり，結果的に投稿数・収載数が増加した．【考察・結論】助成研究の発表や公表の規定を変更，さらには臨床研究支援チームの発足などにより，臨床研究が活性化された．SMCJの発行方法を変えたことにより投稿数・収載数が増加し，これも臨床研究の活性化の要因となった．

キーワード　臨床研究，臨床研究活動実績ポイント，仙台医療センター医学雑誌

はじめに

国立病院機構（NHO）の理念に「質の高い臨床研究，教育研修の推進につとめます」とあり，臨床研究を活発に行うことはNHO病院の責務である．NHO仙台医療センター臨床研究部において行った臨床研究活性化の取り組みを紹介する．

国立病院機構仙台医療センター　臨床研究部　†医師
著者連絡先：江面正幸　国立病院機構仙台医療センター　〒983-8520　宮城県仙台市宮城野区宮城野２-11-12
e-mail：ezura.masayuki.nz@mail.hosp.go.jp
（2024年３月１日受付　2024年４月19日受理）
Attempts to Revitalize of Clinical Research: Initiatives in the Clinical Research Department
Masayuki Ezura, Toru Izumi, Hidekazu Nishimura, Tadashi Kikuchi, Takao Suzuki, Noriko Onoue and Kenichi Sato
NHO Sendai Medical Center
（Received Mar. 1, 2024, Accepted Apr. 19, 2024）
Key Words：clinical research, clinical research points, Sendai Medical Center Journal